地域水田農業のビジョンは

山崎　文久議員

山崎文久議員　コメ改革大綱では、売れる分だけ作れということだが、水田農業維持のため、水田が適切に利用され、その多面的機能が発揮されている姿にしなければならない。「地域水田農業ビジョン」では、担い手の明確化や集落営農の推進等が掲げられているが、それ以前に売れる作物の選定に、農家は大変苦慮している。作物選定のためのモデルほ場の設置や特産品開発プロジェクトを、立ち上げる考えはないか。

北村町長　水田農業ビジョンを達成するために、「町水田農業推進協議会」に、実践組織の幹事会を設置し、研究・検討をしていきたい。

「ヒノヒカリ」を県ブランドに

山崎議員　県では、平成元年度から「食の創造拠点かごしま」の形成を目指し、「かごしまブランド確立運動」を展開中だが、さつま農協管内で生産される「ヒノヒカリ」もブランド指定を受けるのに十分だと思う。売れる米作りをめざして、県ブランド指定への取組みを進めるべきではないか。

町長　米は、主食として消費されていることから、ブランド産地指定の基準設定や定義が難しいが、売れる米作りを目指すことは必要なことである。さつま農協では、山間清流地帯の良食味米を「スーパー奥さつま」の独自ブランド化に向けた取組みを進めており、今後、一体となって取組んでいきたい。

作業所「夢工房」で，粉石鹸づくりに励む遊友会会員（旧町婦連）

廃油石鹸の利用促進を

山崎議員　一月に開催された町女性大会において、『環境浄化はまず家庭から・私たちの手で甦る川・海・大地』のテーマで事例発表がなされた。このなかで、特に廃食油石鹸について、邪魔者扱いされる廃食油が環境に優しい石鹸に生まれ変わり、河川に流れ出ても一日で分解されるなど、河川浄化対策になるとの発表があった。行政も普及活動の一翼を担うべきと強く感じたが、町長の所見は。

町長　河川を汚す主な原因は、家庭からの生活雑排水であり、特に廃食油や合成洗剤の影響が大きい。廃食油石鹸は、環境にやさしいものであり、もっと宣伝をして利用普及に努めたい。

菜の花プロジェクトの構築を

山崎議員　ナタネを植え、搾った油を学校給食や地域で消費し、油粕は肥料に、廃食油は石鹸や代替燃料に加工するといった、資源循環型の「菜の花プロジェクト」構築の考えはないか。

町長　農業振興については、一つひとつの部門で、専門のプロジェクトを立ち上げる必要があり、企画部門の充実を図りながら、提案については十分取り上げていく。